

資料

## 2016年度における生物（動物関係）に関する問い合わせ状況

中島淳・石間妙子・金子洋平・須田隆一

当所で窓口依頼検査以外で回答した動物に関連する問い合わせの内容について概要をまとめた。2016年度は電話や持ち込み、電子メールによる質問が55件であった。問い合わせは県庁各課・保健福祉環境事務所等の県機関からのものが34件、市町村からのものが8件、一般県民からのものが9件、民間業者からのものが4件であった。これらのうち特定外来生物であるゴケグモ類疑い種の同定依頼は18件、同じく特定外来生物であるツマアカスズメバチ疑い種の同定依頼が6件と多かった。また、レッドコロソマ、クロコダイル属の一種など、県内でこれまでに報告がない外来種に関する同定依頼もみられた。

[キーワード：衛生害虫、ペストコントロール、ハチ、クモ、外来種]

### 1 はじめに

当所では窓口依頼検査として生物同定試験を実施しているが、それ以外にも日常的に電話や持ち込み等による生物に関する問い合わせに答えることが多い。本報では2016年度に寄せられた質問のうち、動物に関連するものについてその内容をまとめた。

### 2 方法

動物に関連する各問い合わせについて、依頼元を県、市町村、民間業者、一般県民、その他の5つに区分した。また、質問内容については一般的な不明種に関する同定依頼、ゴケグモ類疑い種の同定依頼、マダニ類疑い種の同定依頼、ツマアカスズメバチ疑い種の同定依頼、生物多様性・外来種に関する一般的な質問、その他、の6つに区分して整理した。

表1に2016年度の月ごとの問い合わせ件数を示す。全体で55件の問い合わせがあり、最も問い合わせが多かったのは10月の16件で、次いで8月が10件、9月が6件であった。一方で、11月から3月にかけての問い合わせはいずれも0-2件と少なかった。全体の問い合わせ件数は2010年度が24件、2011年度が24件、2012年度が57件、2013年度が68件、2014年度が52件、2015年度が51件であり<sup>1)</sup>、問い合わせ件数は前年度と同程度であった。

図1に問い合わせの依頼元と件数を示す。問い合わせは県機関からのものが最も多く、県機関では保健福祉環境事務所からの問い合わせが多かったが、ほぼすべての場合において所管市町村または県民からの質問の仲介であった。市町村からの依頼も同様に一般市町村民からの質問の仲介であった。依頼元の傾向は過去の状況と比較して、大きな違いはなかった。

### 3 結果及び考察

表1 各月における内容別の問い合わせ件数

質問内容	月												計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
不明種同定依頼	5	2	3	3	5	2	5	1		1	1	1	29
ゴケグモ類疑い		2			3	4	7	1				1	18
マダニ類疑い													0
ツマアカスズメバチ疑い				1	2		3						6
生物多様性・外来種				1									1
その他							1						1
計	5	4	5	3	10	6	16	2	0	1	1	2	55

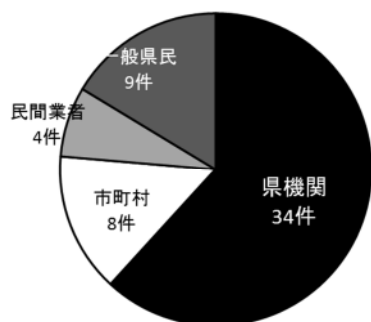


図1 2016年度における問い合わせ元の件数

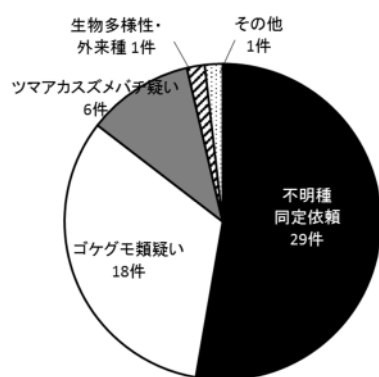


図2 2016年度における内容別の問い合わせ件数

問い合わせの具体的内容は、不明種に関する同定依頼が29件と最も多く、次いでゴケグモ類疑い(18件)が多かった(図2)。ゴケグモ類疑い種として問い合わせがあった18件のうち、セアカゴケグモであったのは5件で、その他はマダラヒメグモ(2件)、キシノウエトタテグモ(1件)、クロガケジグモ(1件)、ハンゲツオスナキグモ(1件)、コゲチャオニグモ(1件)、ジョロウグモ(1件)、サラグモ属(1件)、タカラダニ類が付着したザトウムシ類(1件)、ヨコヅナサシガメ(1件)、破損が著しく同定不可能であったクモ類不明種(3件)であった。また、ツマアカスズメバチ疑い種として問い合わせがあった6件は、ヒメスズメバチ(2件)、コガタスズメバチ(2件)、オオスズメバチ(1件)、セグロアシナガバチ(1件)であった。

その他の不明種同定依頼において種まで同定できたのは、イエシロアリ、ヒメカツオブシムシ、タバコシバンムシ、アカイエカ、ヒメアリ、ヤネホソバ、オオクビキレガイ、カワムツ、オイカワ、ウグイ、マハゼ、レッドコロソマ、アオダイショウ(アルビノ)、ヤマカガシ、ソウシチヨウ、ブンチョウ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、アナグマ、イノシシで、いずれも1件ずつであった。また、例年問い合わせが多いマダニ類疑いに関する同定依頼は本年度は0件であった。

本年度同定依頼が寄せられた種のうち、外来種であるレ

ッドコロソマとクロコダイル属の一種についてはこれまで県内での記録がないため、ここに採集状況を付記しておきたい。レッドコロソマは2016年10月11日に筑後川の筑後大堰付近において一般市民により釣り上げられ、久留米市環境保全課に持ち込まれたものである。体長約30cmの成魚であった(図3)。また、クロコダイル属の一種は2016年7月15日に糸島市内の農業用水路で一般市民により発見され、警察により捕獲された後、糸島保健福祉事務所に持ち込まれたものである。全長約70cmの幼体であった(図4)。これらはいずれも現在、当所で冷凍保存している。



図3 筑後川で捕獲されたレッドコロソマ

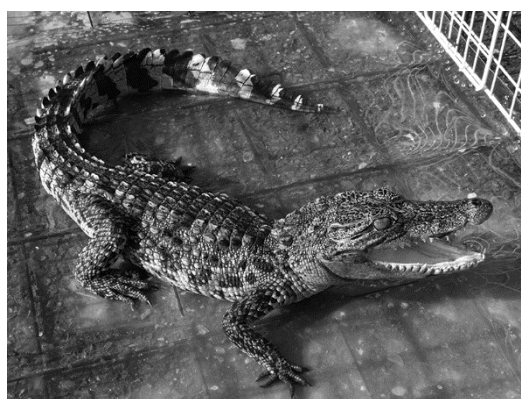


図4 糸島市で捕獲されたクロコダイル属の一種

本報をまとめるにあたり、クモ類の同定に際してご教示いただいた馬場友希博士(国立研究開発法人農業環境技術研究所)、爬虫類の同定についてご教示いただいた田原義太慶氏、クロコダイル属の一種の採集状況等ご教示いただいた福岡県糸島保健福祉事務所にこの場を借りてお礼申し上げます。

## 文献

- 1) 中島淳ら：2015年度における生物(動物関係)に関する問い合わせ状況，福岡県保健環境研究所年報，43，185-186，2016。